

## アナログレコードの探し方

ここでは一例として Miles Davis の作品を探すということを念頭に置きながら「探し方」をご紹介します。

「適切な探し方」は対象となるミュージシャン、お住まいの地域などによって異なってくると思われます。

また、このやり方は所謂レコード・コレクターの方々には参考にならないということをお断りさせていただきます。

大まかに言えば、Miles Davis の探し方は3通りです：

①ネット通販（具体的には“Amazon アナログレコード”サイト）を使って、主に海外の再発盤を入手する、②日本の中古レコード屋さんのサイトで探し、店に出向いて直接入手する、③海外のサイト（具体的には“Discogs”）で探し、クレジット決済で入手する。

### 1 ネット通販（Amazon アナログレコード）

Miles の場合、所属レコード会社は Prestige → Columbia → Warner Bros.と移っていますが、Prestige 時代の再発盤は OJC や欧州の再発盤レーベルから出ています。これらはこのネット通販で入手可能です。

また Columbia 時代のものは Columbia Legacy シリーズとして再発されており、これらも入手可能です。なお W.B.時代の作品は主に CD となります。

いずれにしても、このネット通販では基本的に送料が無料ですし、盤質に問題があった場合は交換や返品が出来るシステムとなっていますので安心だし便利です。

また、これらの再発盤は基本的には「新品」ですから、中古レコードに比べてリスクが少ないことも大変なメリットです。

### 2 国内の中古レコード屋さんを活用する（最も“可能性”を感じるやり方）

具体的には“中古レコードのサウンドファインダー（SOUND FINDER）で作品を探し、このシステムの加盟店（現時点では 32 店舗あるようです）から購入するやり方です。

当社の場合、近場のお店は大宮駅東口の「レコード屋グリグリ」となります。

ディスク・ユニオンのような大手のサイトと比べると何かしら暖かい印象です。

ジャズの場合に限らないことですが、国内中古盤は概して盤質の状態が海外のものに比べてはるかに良好です。これはかつてのアナログレコード時代に「レコードも針もすぐ磨耗する」という誤った通念があり、多くの一般的な音楽ファンは購入したレコードをカセットテープにダビングして普段はカセットテープで音楽を聴いていたからです。

これで国内盤に刻まれたサウンドが良ければ万々歳、わざわざ海外の再発盤など入手する必要は全く無いのですが、それがそうではないからやっかいです。

いくら盤質が良好でも、盤に刻まれたサウンドがダメならもうどうしようもありません。

ジャズの世界ではキングレコードのサウンドは一応良いとされています。実際にビル・パーキンスの“ジャスト・フレンズ”（原盤は PACIFIC JAZZ の M-401、キングの再発盤は「パシフィック・ジャズ 1800 シリーズ (=1,800 円) GXF 3114(M)」を聴きますと、これなら全く文句無しだと思えます。

その昔、国内のレコード会社は「〇〇名盤シリーズ・復刻シリーズ」を盛んに出しています、それらの中にはサウンドが優秀なものもあるかもしれません。

レコード屋グリグリ 사이트からサウンド・ファインダーで検索しますと（デフォルトではグリグリの手持ち在庫から探すようになっています）、レコード番号が“To: BLP1581”というように表記されていますが、この To は東芝 EMI のことです。Te ならテイチク、Po はポリドールという具合です。このレコード会社コード一覧はネットからダウンロードしておくとう便利です。

また、グリグリを検索していますと、数は少ないのですが、“Porgy and Bess” (Columbia PC 8085) のような米国 Columbia 自身が再発した盤がお手頃価格で出現します。

しかも盤・ジャケットのコンディションが NM - NM なので驚いてしまいます。

ちなみに NM は Near Mint (=新品同様) のことです。

なお、ジャズの世界では全体としてあまり評価されていない国内盤ですが（グリグリの店主によれば SONY 盤でも 80 年代なら OK）、クラシックの世界では事情が異なるのかもしれない。

例えばユニバーサル・ミュージックが名盤シリーズとして出している、ドイツ・グラモフォンの輸入メタル原盤を使ってプレスしているカラヤンとベルリンフィルの第 8・第 9 などのサウンドに問題があるはずはありません。国内盤といっても実にいろいろ様々です。

### 3 海外のサイトで探して入手する

これは探しているレコード盤が上記 1, 2 の方法で見付からない場合のいわば非常手段です。

レコード会社、アルバム名を英語で入力して検索しますと、大抵の場合は Discogs というサイトが出て来ます。このサイトに米国や欧州のショップから中古レコードが出品されているわけですが、大きな欠点は、①劣悪な環境で酷使された結果？盤・ジャケットのコンディションが総じて悪いこと（A 面はダメでも B 面はセーフということもありますが）、②送料が 20~25 ドル（あるいはユーロ）と高いことです。

いくらレコード自体が 10 ドルだとしても、結果的にはコンディションの悪い盤を高い価格で購入することになってしまいます。

以上は「探し方」のひとつの事例です。他にも上手なやり方があるようです。いろいろ調べて工夫してお手頃価格で良い状態・サウンドの盤を入手した時は本当に嬉しいものです。

以上

補足 Miles Davis の場合のアナログレコードの探し方 (要点)

1 1950～1960 年の Prestige 時代

これは OJC などの海外再発盤が良いと思います。基本的にモノラル録音盤です。

ただし、①BLUE NOTE “Miles Davis Vol.1 (1501)”、“同 Vol.2 (1502)” については最近国内で出た再発盤、②同じく BLUE NOTE の “Something Else” の場合はこの国内再発盤が人気盤で売切れのため BLUE NOTE 自身が出した再発盤(BST-81595)になるようです。

2 1960～1980 年の Columbia 時代 (1975～1980 年の音楽活動休止期間を含む)

この時期については Columbia Legacy シリーズなどの海外再発盤が主力です。

CBS ソニーの国内再発盤は避けましょう。

なお、1960 年代後半までの作品はステレオ盤とモノラル盤が並販されていますが、どちらが良いかはケース・バイ・ケースです。

注1 CBS とソニーが提携したのは 1968 年ですが、国内盤の音質については 1975 年頃まで問題があったようです。

3 1980～1985 年の Columbia 時代

CBS ソニーの国内盤でも構いません。勿論 Columbia のオリジナル盤も再発盤でも OK です。

注1 CBS ソニーは 1979 年に高品質「マスターサウンド シリーズ」の発売を開始しています。

注2 1982 年にフィリップスとソニーが CD の規格を発表しています。

4 1985～1991 年の Warner Bros.時代

この時代の作品は基本的に CD となります。

なお、Columbia 時代のライブ演奏の CD 再発盤ですが、レコードの場合とは違い、演奏の様子が分かる写真が含まれていることが多いのです。

これはレコードをより深く理解する上で役立ちます。